

Overview: 全聖書は神聖なロマンスであり、神がどのように彼の選ばれた民に求愛し、最終的に彼らと結婚するかの記録です。神の民が神を愛し、神の言葉の中で時間を費やし神と交わるとき、神は彼の神聖な要素を彼らに注入し、彼らを神の配偶者として神と一にならせます。私たちは創世記第2章で、アダムとエバの予表において、キリストと召会の絵を見ます。「その人が独りであるのは良くない。私は彼に、彼の配偶者としての助け手を造ろう」。エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人のところに連れて来られた。その人は言いました、「今度こそ、これが私の骨の骨、私の肉の肉である」。キリストから再生された者たち、また召会としてキリストによって生きる者たちだけが、キリストにふさわしく、キリストを補完することができます。

I. 全聖書は神聖なロマンスであり、神がどのように彼の選ばれた民に求愛し、最終的に彼らと結婚するかの記録です: A. 私たちは神の民として神との愛の関係の中へと入るとき、彼の命を受けます。それはまさにエバがアダムの命を受けたのと同じようにです。
B. この命が私たちを神と一にならせ、神を私たちと一にならせます。
C. 神と神の民が一となるために、両者の間に相互の愛がなければなりません。
D. 聖書の中で啓示されている神と神の民との間の愛は、おもに男と女の間の愛情深い愛のようです。
E. 神の民が神を愛し、神の言葉の中で時間を費やして神と交わるとき、神は彼の神聖な要素を彼らに注入し、彼らを神の配偶者として神と一にならせ、命と性質と表現において神であるのと同じにならせます。』

II. 私たちは創世記第2章で、アダムとエバの予表において、キリストと召会の絵を見ます:
A. アダムが予表するのは、キリストにある神が真の、宇宙的な夫であり、ご自身のために妻を捜し求めているということです。
B. 「エホバ・神は言われた、『その人が独りであるのは良くない。私は彼に、彼の配偶者としての助け手を造ろう』(創2:18): 1. アダムが妻を必要としたことが予表し描写しているのは、神が彼のエコノミーの中で、彼の配偶者また彼の補完(文字どおりには、彼の対)としての妻を得る必要があるということです。2. 神、キリストは絶対的に永遠に完全ですが、彼の妻としての召会がなければ、全体的ではありません。3. 神はキリストを予表するアダムと、召会を予表するエバの両方を持つことを願っています。神の目的は「彼らに…治めさせ」ることです。神の目的は、勝利を得たキリストに加えて勝利を得た召会を持つこと、悪魔のわざに打ち勝ったキリストに加えて悪魔のわざを覆した召会を持つことです。神はキリストと召会に統治権を持たせることを欲しています。』

III. 私たちは、神がご自身のために配偶者を生み出すために何を行なったかを見る必要があります: A. 神は、野のあらゆる動物と、空のあらゆる鳥を土から形づくり、それらをアダムの所に連れて来ました、「こうして、その人は、すべての家畜と空の鳥と野のあらゆる動物に名を付けたが、アダムのために、彼の配偶者としての助け手が見当たらなかった」(創2:19-20):

1. 妻は命と性質と表現において、夫と同じでなければなりません。2. 家畜と鳥と動物の間に、アダムは彼自身のための配偶者、彼にふさわしいものを見いだせませんでした。
B. 神はご自身のために配偶者を生み出すために、まず人と成りました。それは神がアダムを創造したことによって予表されます。
C. 「エホバ・神が、その人を深い眠りに陥らせられたので、彼は眠った。そして彼のあばら骨の一つを取って、その場所を肉でふさがれた」(創2:21):
1. アダムの深い眠りは、彼の妻としてのエバを生み出すためであって、キリストの十字架での死を予表し、それは彼の配偶者としての召会を生み出すためです。』
2. 聖書において、眠りはしばしば死を指します。3. キリストの死は、命を解き放ち、命を分け与え、命を増殖させ、命を繁殖し、命を複製する死です。それは一粒の麦が地に落ちて死んで、成長し、多くの麦粒を生み出して、パンとなることによって表徴されています。そのパンはからだ、召会です。4. キリストの死を通して、彼の内側にある神聖な命は解き放たれました。そして、彼の復活を通して、解き放たれた神の神聖な命は彼の信者たちの中へと分け与えられて、召会を構成しました。5. そのような過程を通して、神はキリストの中で彼の命と性質をもって人の中へと造り込まれました。それによって、人は命と性質において神と同じになることができ、神の配偶者として神にふさわしくなります。

D. 「エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた」(創2:22): 1. アダムの開かれた脇から取られたあばら骨は、キリストの砕かれ得ない、不朽の、永遠の命を予表します。それは、彼の突き刺された脇から流れ出て、命を彼の信者たちに分け与えて、彼の配偶者としての召会を生み出し、建造します: 』
a. キリストの脇から出て来たのは血と水でしたが、アダムの脇から出て来たのはあばら骨だけであって、血はありませんでした。
b. アダムの時は罪がなかったので、血による贖いの必要はありませんでした。c. しかしながら、キリストが十字架上で「眠っていた」時まで、罪の問題がありました。こういうわけで、キリストの脇から出て来た血は、私たちの法理的な贖いのためでした。d. 血に続いて水が出て来ました。この水は神の流れる命であり、私たちの有機的な救いのためです。この神聖な、流れる、非受造の命は、アダムの脇から取られたあばら骨によって予表されています。

2. 創世記第2章22節は、エバは創造されたとは言っておらず、建造されたと言っています。エバがアダムの脇から取られたあばら骨で建造されたことが予表しているのは、召会が復活の命で建造されるということです。この復活の命は十字架でのキリストの死を通して彼から解き放たれ、復活の中で彼の信者たちの中へと分け与えられました。
3. 真のエバとしての召会は、キリストのすべての信者の中のキリストの総合計です。召会はキリストの複製です。召会の中に、キリストの要素以外の他の要素はあってはなりません。
4. キリストの復活と共に彼から出て来るものだけが、彼の補完となり、キリストのからだである配偶者となることができます: a. 私たちは天然の命をすべて脱ぎ捨てる必要があります。そしてついには生けるキリストが私たちの霊から表現されることができるようになります。それから私たちは実際において召会となります。b. 何であれキリスト以外のものを生かし出すことは召会ではありません。「生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです」。「私にとって生きることはキリストであり」。これが召会です!
c. キリストから出てくるものだけが、キリストによって承認されることができます。キリストから出てくるものだけがキリストに戻って、キリストにふさわしくなることができます。
5. 聖書の最後には一つの都、新エルサレム、究極の永遠の女、団体の花嫁、小羊の妻があり、それは三つの尊い材料で建造されており、創世記第2章で示されている予表を永遠にわたって成就します。こういうわけで、予表において、創世記第2章11節から12節で述べられている尊い材料はすべて、女を建造するためです。
6. エバがアダムから取り出され、アダムに連れ戻されて、彼と一つの肉体となったように(24節)、キリストから生み出された召会もキリストに戻って、彼と一つ霊になります。キリストと召会一つ霊であり、これは夫と妻が一つの肉体と成ることによって予表されているようにです。これは偉大な奥義です。
7. 将来において、キリストは聖なる花婿であり、私たちが彼の配偶者として彼ご自身にささげて結婚します。それはちょうど神がエバをアダムの配偶者としてアダムにささげて結婚させたようにです:
a. エペソ第5章27節は花嫁の美しさを啓示しており、「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼[キリスト]がご自身にささげる」と言います。b. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれそれから召会を通して表現されるキリストから来ます。c. 主の回復はキリストの花嫁の用意を整えるためです。彼の花嫁は、すべての勝利者から成っています。

E. 「その人は言った、『今度こそ、これが私の骨の骨、私の肉の肉である。この者を『女』と呼ぶことにしよう。それは、この者が『男』から取り出されたからである』。それゆえに、人はその父母を離れて、その妻と結び合い、彼ら二人は一つの肉体となるのである」(創2:23-24): 1. ヘブル語で「男」は「イシュ(Ish)」であり、「女」は「イシヤ(Ishshah)」です。召会はキリストの純粋な産物です。召会は「キリスト的」であり、「復活的」であり、天的です。2. キリストから再生された者たち、また召会としてキリストによって生きる者たちだけが、キリストにふさわしく、キリストを補完することができます。』

3. キリストがこのことを見るとき、彼は必ず言います、「今度こそ、これが私の骨の骨、私の肉の肉である」。4. エバがアダムの増し加わりであったように、花嫁としての召会は、花婿としてのキリストの増し加わりです。5. アダムとエバが一つの肉体、一つの全体的な単位となったことは、神と人が結合されて一になることのしるしです。来たるべき新エルサレムは、神と人との永遠の結合、宇宙的な夫婦であり、神性と人性から成る一つの全体的な単位です。

F. アダムとエバは一であり、夫と妻として共に結婚生活をしました。このことが描写しているのは、新エルサレムにおいて、手順を経て究極的に完成された贖う三一の神が宇宙的な夫であり、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された人が妻であって、彼らは共に結婚生活をし、永遠に至るということです: 1. 聖書の啓示全体は、宇宙的な夫婦の愛の物語を私たちに見せています。2. 宇宙と万物を創造した主権者なる主、すなわち、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天の手順を経過し、最終的に命を与える霊と成った父、子、霊である三一の神は、創造され、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化され、最終的に神の表現である召会を構成する霊、魂、体の三部分から成る人と、結婚によって結ばれます。3. 彼らは終わりのない永遠において、神聖な、永遠の、比類のない栄光の命によって、神と人がミングリングされて一つ霊となる生活、すなわち極めて卓越していて、祝福と喜びをあふれ流す生活をします。』

第一日: エレミヤ2:2…エホバはこう言われる、私はあなたについて、あなたの若いときの思いやり、花嫁の日々の愛を覚えている。その時、あなたは荒野で、…私の後に従った…。

《預言の準備》

エペソ5:25…キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられた

27またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。

第二日: 創2:18それから、エホバ・神は言われた、「その人が独りであるのは良くない。私は彼に、彼の配偶者としての助け手を造ろう」。

22こうして、エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた。

第三日: 創2:19エホバ・神は、野のあらゆる動物と、空のあらゆる鳥を土から形づくられた。そしてその人の所に連れて来て、彼がそれらをどのように呼ぶかを見られた。

20…アダムのために、彼の配偶者としての助け手が見当たらなかった。21そこで、エホバ・神が、その人を深い眠りに陥らせられたので、彼は眠った。そして彼のあばら骨の一つを取って、その場所を肉でふさがれた。

第四日: 創2:22…エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた。23すると、その人は言った、「今度こそ、これが私の骨の骨、私の肉の肉である。この者を『女』と呼ぶことにしよう。それは、この者が『男』から取り出されたからである」。24それゆえに、人はその父母を離れて、その妻と結び合い、彼ら二人は一つの肉体となるのである。

第五日: ヨハネ19:34しかし、兵卒の一人が彼の脇を槍で突き刺すと、直ちに血と水が流れ出た。

36これらの事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれない」という聖書が成就するためであった。

第六日: ヨハネ3:29花嫁を持つ者は花婿である。…30彼は必ず増し加わるが、私は必ず減少する。

啓22:17その霊と花嫁が言う、「来たりませ！」。聞く者も「来たりませ！」と言いなさい。

『渴いている者は来たれ。欲しい者は、命の水を値なしに飲むがよい』

経験①: 召会は花嫁・軍隊として悪魔サタンに敵対して戦う

全聖書は神聖なロマンスであり、神がどのように彼の選ばれた民に求愛し、最終的に彼らと結婚するかの記録です。私たちは神の民として神との愛の関係の中へと入るとき、彼の命を受けます。それはまさにエバがアダムの命を受けたのと同じようにです。この命が、私たちが神と一にならせることができ、彼を私たちと一にならせます。私たちが律法を守るのは、私たちの思いや意志を活用することによってではなく、私たちの夫としての主を愛し、それによって彼の命と性質にあずかって彼と一になり、彼の拡大また表現となることによってです。

主なる神は言われました、「その人が独りでいるのは良くない」(創 2:18)。言い換えると、神はアダム「とエバ」の両方を持つことを願っていたということです。神の目的は、勝利を得たキリストに加えて勝利を得た召会を持つこと、悪魔のわざに打ち勝ったキリストに加えて悪魔のわざを覆した召会を持つことです。神の目的は、支配するキリストと支配する召会を持つことです。これが、神がご自身の喜びのために計画したことです。また彼はご自身の満足のためにそれを行ないました。神がそれを行なうことを願っていたので、それはなされたのです。神はキリストを持つことを願っており、また神はキリストと全く同じである召会を持つことを欲していました。神はキリストが統治権を持つことを願っていただけではなく、また召会も統治権を持つことを欲しています。神は悪魔が地上にいることを許しています。なぜなら、彼は「彼らに」、すなわちキリストと召会に「治めさせよう」と言われたからです(創 1:26)。神は召会がキリストの配偶者として、サタンを対処することにあずかるべきであることを計画しました。もし召会がキリストにふさわしくないなら、神の目的は成就されないでしょう。戦いにおいて、キリストは配偶者を必要とし、栄光においてさえ彼はまた配偶者を必要とします。神は召会があらゆる面でキリストと同じになることを要求します。キリストが配偶者を持つということは、神の願いです。

在職青年編

全聖書の主題は神聖なロマンスです。このロマンスにおいて、召会はキリストの花嫁です。召会の兄弟姉妹は花嫁の一部分ですので、キリストを熱烈に愛し、「主イエスよ、あなたを愛します」と何度も叫びます。このような愛の関係がなければ、召会生活は味わいを失ってしまいます。

花嫁である召会は、神のエコノミーが遂行されることを願い、愛します。創世記でアダムが創造された後、神はアダムが独りでいるのは良くない、と言われました。神はまたアダム(キリスト)の配偶者、補完としてのエバ(召会)を持つことを願われました。そしてキリストと召会が悪魔サタンを含むすべてのものを治めることを願われました。あなたはビジネス・パーソンとして、二つのことがとても重要であることを知るべきです。

- i. 毎日キリストを熱烈に愛し、自分自身を生きたいけにえとして朝夕ささげるべきです。決してキリストよりも収入や地位を愛してはいけません。
- ii. 召会は花嫁・軍隊です。サタンとサタンの軍隊は悪霊の勢力であり、暗闇の世の主権者たちです。あなたが勤めている会社を含め、世の中の支配者を支配しているのは邪悪な霊です。キリストと召会だけがサタンとサタンの王国を覆すことができます。あなたは花嫁・軍隊の一部分ですので、主の中で、召会と共に勇気を持って、サタンに敵対するために立ち上がるべきです。たとえば、召会建造のために、残業を制限して業績を上げることも、戦いの一つです。アーメン！

経験②: エバがアダムから建造されたように、召会はキリストから建造される

アダムが眠っている間に神がエバを生み出す働きを終えた後、アダムは眠りから覚めました。アダムの眠りがキリストの死を予表するように、彼の目覚めることはキリストの復活を表徴します。アダムは目覚めた後、彼から生み出されたエバを伴う別の人となりました。キリストも復活の後、彼から生み出された召会を伴う別の人となりました。アダムがついに眠りから覚めて、エバを彼の配偶者としたように、キリストも死人の中から復活させられて、召会を彼の補完としました。

召会はキリストの純粋な産物にほかなりません。これは創世記におけるエバによって予表されています。エバは完全に、全体的に、純粋にアダムから生み出されました。エバの内側には、アダム以外のものはありませんでした。アダムの要素以外に、エバの中に他の要素はありませんでした。エバの中にあつたものは何であれ、またエバであつたものは何であれ、アダムでした。エバはアダムの完全な複製でした。アダムとエバは、キリストと召会の予表です。召会も一つの要素、すなわちキリストの要素でなければなりません。キリストの要素以外に、召会の中には他の要素があつてはなりません。…キリスト以外のものは何であれ、召会ではありません。

聖書の啓示全体は、宇宙的な夫婦の愛の物語を私たちに見せています。それは宇宙と万物を創造した主権者なる主、すなわち、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天の手順を経過し、最終的に命を与える霊と成った父、子、霊である三一の神は、創造され、再生され、造り変えられ、栄光化され、最終的に神の表現である召会を構成する霊、魂、体の三部分から成る人と、結婚によって結ばれます。彼らは終わりのない永遠において、神聖な、永遠の、比類のない栄光の命によって、神と人がミングリングされて一つ霊となる生活、すなわち極めて卓越して、祝福と喜びをあふれ流す生活をします。

中高生編

エバはアダムから出てきました。エバは召会を、アダムはキリストを予表します。あなたは召会を建造するため、キリストから豊富な供給を享受し、キリストをあなたの心の中に豊かに住まわせる必要があります。あなたの天然の才能や力から召会は建造されません。それは必ずキリストから来なければなりません。あなたは霊を活用して御言葉の中に具体化されているその霊に触れることによって、イエスで構成され、イエスの人の生活をあなたの人の生活としなければなりません。このような生活はキリストから出たものですので、エバ、召会を建造することができます。キリストから出たものだけが彼の配偶者にふさわしいのです。

神はアダムの前にあらゆる種類の動物を連れて来ましたが、アダムの配偶者にふさわしいものはいませんでした。そこで神はアダムを深い眠りに陥らせて彼のあばら骨の一つを取って、一人の女を建造し、彼女をアダムのところに連れて来ました。するとアダムは言いました、「今度こそこれが私の骨の骨、私の肉の肉である」。エバはアダムからのものを持って建造されました。あなたは学校生活でキリストを経験してください。キリストを人間関係の潤滑油として、また勉学の知恵、理解力、暗記力などとして経験してください。あなたが経験したキリストは、召会を建造することができます。

また、あなたはキリストを自分の夫とし、キリストに服従する必要があります。あなたは過去、自分の願いに従って自分のために立てたプランを成功させるために、主に助けを求めてきました。このような祈りは自分を主としているので、花嫁の祈りではありません。召会生活の中で、徐々に主を更に愛し、主に服従する花嫁の生活を訓練してください。ハレルヤ!

詩歌 592 召会 — キリストの豊満

1
キリストの豊満エンジョイし、われらその豊満となる;
かれご自身のすべてに あずかりて表現す。
2
その豊満は主自身、われらのきょう受となる;
かれの豊満はしょうかい、主をエンジョイし、成就す。
3
主の豊満を予表す カナンの富む産ぶつもて、
かみのみや建造するは、召会産しゆつ予表す。
4
アダムの豊満なる エバはアダムより出て、
しょう会がキリストより 出たことを予表す。
5
豊満はうちなる主、ほう満は外面の召かい;
主に満たされた表現は、主と同様にとうとし。

1
我們享受基督豐富,
就得成為祂的豐滿;
分享一切祂之所是,
就能使祂得著彰顯。
2
基督豐富是祂所是,
來作我們一切享受;
基督豐滿乃是召會,
因享基督而得成就。
3
迦南美地豐富出產,
乃是豫表基督豐富;
藉這出產聖殿得成,
象徵召會出於基督。
4
夏娃乃是亞當豐滿,
豫表召會之於基督;
夏娃原是出於亞當,
基督也是召會出處。
5
豐富是我裡面基督,
豐滿是我外面召會;
充滿基督, 作祂表現,
得與基督同樣寶貴。

#820 The Church – The Fullness of Christ

1
Riches of Christ we should enjoy
And then His fulness we will be;
Partaking of His very self,
His testimony men will see.
2
Riches of Christ are what He is
To us who are His members true;
His fulness is what we become
As body doth to man accrue.
3
Riches of Christ are typified
By Canaan's produce rich and sweet,
With which the temple great was built,
The Church's greatest type replete.
4
As Eve to Adam fulness was,
So is the Church to Christ her Head;
As Eve from Adam's being came,
The Church by Christ's own life is bred.
5
Christ's riches are Himself within,
His fulness is the Church without,
As His expression, full of Him;
The Church with Christ is built throughout.